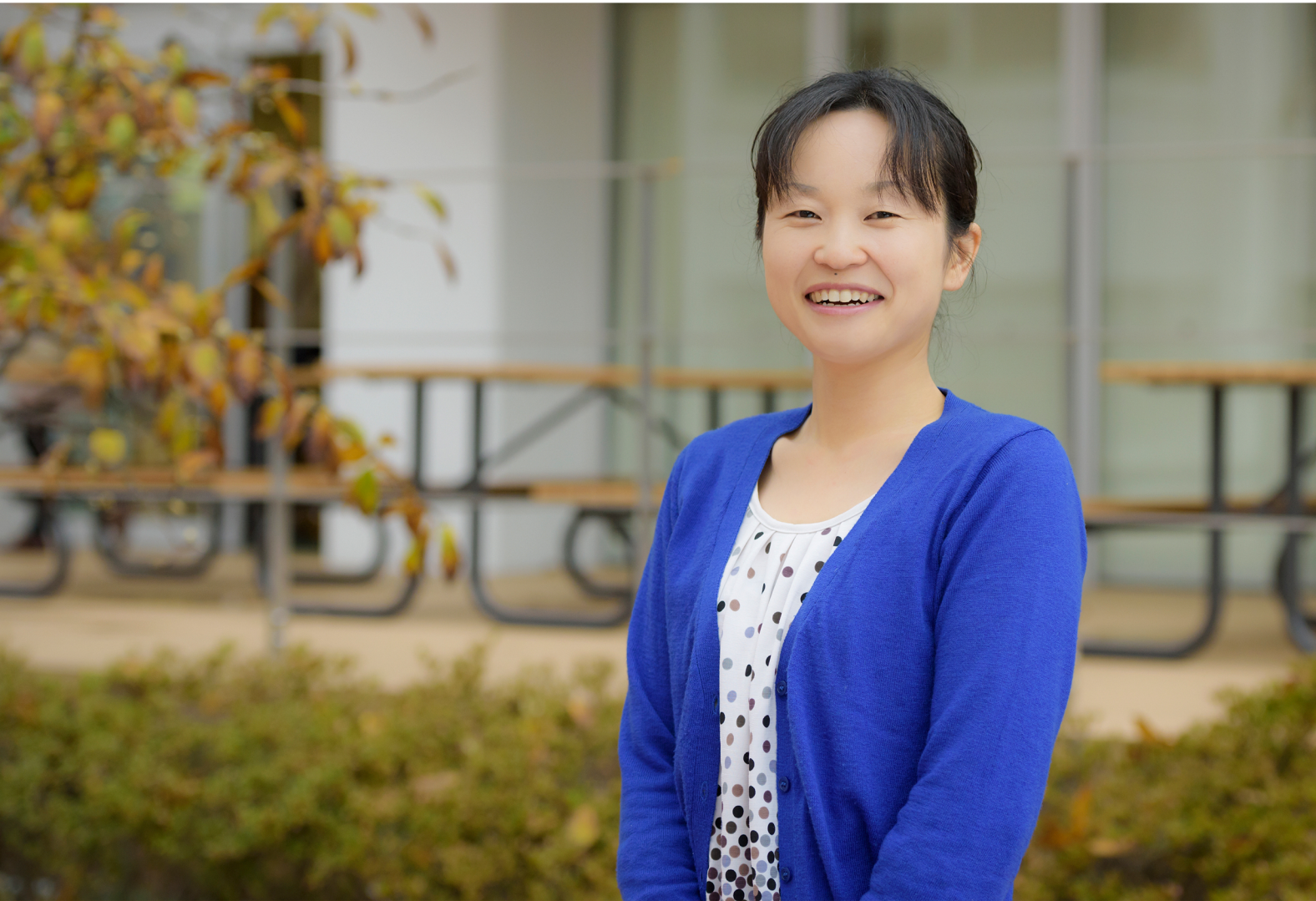


# 出産、育児の負担を背負うのはやっぱり女性。まず出産から男性にも参加してほしい。



## 芳賀 亜紀子 *Aiko Houga*

学術研究院講師(保健学系)  
(医学部 保健学科 看護学専攻 小児・母性看護学領域 講師)

長野県松本市出身。大学卒業後、助産師の資格を信州大学で取得したあと、故郷を離れ、東京での病院勤務を経て出産を機に退職・帰郷。出産後、現職。現在、働きながら博士後期課程に通う。夫は学生時代の同級生で看護師。研究分野は、母性看護学、助産学。

### 学生へのメッセージ

子育てには、夫や職場の仲間、両親やきょうだい、保育園など、たくさんの人たちの協力が欠かせませんが、そうした経験が必ず仕事に生きる時があります。研究でも仕事でも、自分の選んだ道を自信を持って続けていくこと。多少うまく行かない時があっても、なんとかなります。いつか自分が助けてあげられる番がきたら、誰かを支えたい。そのぐらいの気持ちでがんばってください。



我が家のデッキにて。頭には、娘からの私(母)の誕生日プレゼントです。パックは実家の田んぼと畑。おいしいお米と野菜をいただいています。命の源です。



最愛なる娘・息子・夫。ある夜の肩車です。



めったにない、家族みんなのオフに遊園地へ。

## 助産師養成という仕事

私の所属している看護学専攻では、看護師、保健師、助産師を養成しています。そのなかで、私は母性看護学の指導や、一学年80名中、助産師コースの20名の教育に携わっています。実は、私も信州大学のOGですが、信大の助産師コースは50年以上の歴史があり、多くの先輩方にも支えられて教育が続いています。

助産師は、今の日本では女性に限定された職種なので、女性だからこそその経験も活かせる仕事で、独立して助産院を開業することもできます。経過が正常であれば助産師主導でやれる。助産師はある意味、医師とのタイヤの両輪であり、女性の一生を支えることができる。そこが魅力ですね。

## 保育園と職場の支えで仕事復帰

私は3人姉妹の長女で、いずれ松本へ帰ってこなければと思っていました。最初の就職先は、東京の病院勤務の助産師でした。そこで5年間仕事して、夫と結婚し、最初の子どもを出産した翌月に松本に戻ってきました。

夫も看護師なので、夫の職場併設の宿舎に入居し、私は1年間専業主婦をしていました。そして恩師から声をかけていただき、子どもが1歳2ヵ月のときに保健学科の助手として仕事を始めました。子どもは、大学内の「おひさま保育園」に預けましたが、熱を出したなど、すぐに電話がかかってきて、4月はほとんど働けない状態でした。この先やっつけけるのかなあ、と不安もありましたが、職場の先生方の理解や協力に支えられ、5月ぐらいからは徐々に慣れてきました。ほんとに手探りの中での仕事復帰でした。

## 自宅出産、お兄ちゃんとパパも立ち会う

上の子が小学校に入学する前に、実家から50メートルほどのところに家を買いました。2番目の子どもは、その家で産みました。今、家で出産する人は1%以下です。この経験は私たち家族にとってとても貴重なものになりました。7歳のお兄ちゃんも立ち会って、パパと一緒に妹のへそを切りました。ある意味、一緒に産んだぐらいの気持ちだったと思います。

出産にお父さんが関わると、育児にも自然と関わるようになるし、女性への理解にもつながります。お兄ちゃんも妹の

### Time Schedule



- 05:00 起床  
朝食の用意
- 06:00 子どもを起こして朝食
- 07:15 家を出る
- 07:30 保育園に子どもを預ける
- 08:00 大学到着  
着替えて実習
- 12:00 昼食
- 
- 
- 17:00 長男は実家に帰って  
預かってもらう
- 18:00 保育園に子どもを  
迎えに行き買い物
- 19:00 帰宅し晩ご飯
- 20:00 子どもと入浴
- 21:00 就寝
- 02:00~ 仕事や勉強のときも
- 03:00 あり

出産を体験してから、私が仕事で遅くなる時なども嫌な顔をしなくなりました。自分もできるだけお母さんに協力しようという気持ちが湧いてくるみたいです。

昨年、大学の公開講座で父親講座をやったのですが、とても好評でした。男性も女性も、出産や子育てを共に体験し、乗り越えていくことで、お互いへの理解が深まっていくと思います。子育てはどうしても女性の負担のほうが大きいですが、出産の痛みを共有することで、女性への理解や思いやりが違ってきます。男性は出産立会いから参加してほしいですね。

### Focus!



助産師養成コースは総勢20名。全員が女性だ。資格を取得するためには、実習が必要で、学生は松本市内や県内の病院に行き、出産に立ち会い、生まれた赤ちゃんの入浴やお母さんのおっぱいを診る。だから実習着はユニフォーム。出勤して、実習着に着替えると「さあ仕事」という気持ちになる。母や妻の気持ちが一瞬にして切り替わる。